

松山市在宅医療支援センターの活動状況 《在宅医療の普及・充実に向けて》

1 センターの概要

- (1) 設 立 平成 27 年 4 月 1 日
- (2) 目 的 地域包括ケアの実現のため、在宅医療の普及・充実に推進する
- (3) 設置主体 一般社団法人 松山市医師会
- (4) 所 在 地 松山市柳井町 2 丁目 85 番地
- (5) スタッフ 3 名（看護師 2 名、社会福祉士 1 名）

2 活動状況

(1) 在宅医の支援

①在宅医の資質向上のための研修

- A. 在宅緩和ケア症例検討会
- B. 勉強会・研修会等の実施
- C. 在宅医療入門セミナーの開催

開業医の先生方から、在宅に取り組みたいが何から取り組めばよいかわからない、始めたけどうまくいかないなどの意見がみられる。そこで訪問診療を行っている医師が中心となり、在宅医療を始めるために必要な基礎知識をシミュレーションで紹介するセミナーを今年度開催予定であり、現在準備中である

②在宅医療の制度等についての情報の集約および伝達

- A. 在宅医療に関する情報の収集・集約
- B. 松山市医師会報への投稿

センターが行っている事業や、医療制度の情報提供などを医師会員へ「センター便り」として医師会報へ定期投稿。29.8月までに 12 回投稿している。
テーマ ex) 松山市の看取りの現状、診療報酬改定など

- C. 松山市医師会 F A X 情報への投稿

③在宅医療における連携支援

- A. 松山在宅医療連絡会の開催

市内を 5 地区に分け、各地区に世話人の医師を置き在宅医療をテーマに連絡会を開催している。会場は原則地区内の病院をお借りし勤務医も参加しやすい体制を取っている。現在までに 33 回開催し、2064 名の参加者があった。医師の顔の見える連携に繋がっている
テーマ ex) 様々な施設における医療介入について

- B. 松山在宅医療合同連絡会の開催

各地区開催の連絡会を 1 回/年合同で開催。地区で開催した連絡会の報告や、希望の多かったテーマでシンポジウムや講演会を実施。今年度の開催は 9/2（土）テーマ：松山地区在宅医療のための病病・病診連携について語り合おう、参加者は 114 名であった

C. メーリングリストの活用・管理

在宅医療に関しての情報発信や副主治医の依頼、および『他科医師への往診依頼』のためのメーリングリスト（ML）を立ち上げている。登録は医師に限っており、現在 113 名が登録している。「通院困難な者の定義について」の質問に対し議論を交わしたり、連絡会の案内や報告にも利用している。

④在宅医同士の協力体制の構築・推進

A. 主治医・副主治医制

通院が困難な患者さんに対して、医療サービスを提供する医師（在宅医）の裾野を広げること、及び、在宅医のサポートとして学会・その他の事由で主治医が松山圏域を離れる場合において、在宅患者の急変時に対応できる体制。平成 28 年度は 63 件の利用がありうち看取りのため 4 件の出務があった。

依頼期間は 2 日間が最も多く、4 日以上依頼も 5 件あった。

B. 他科往診依頼制

通院が困難な患者さんに対して医療サービスを提供する医師（在宅医）の裾野を広げること、及び、在宅医療のサポートとして、専門性の高い診療科との連携を促進する体制。平成 28 年度は 25 件の利用があり、皮膚科（12）耳鼻科（7）眼科（4）循環器内科（1）精神科（1）であった。最近では認知症による精神科の他科往診依頼制利用も増えている。

⑤医療機器の貸出

在宅医の支援の一つとして、シリンジポンプ 2 台、超音波診断装置 1 台、吸引器 5 台に加え 29 年 7 月より吸入器 1 台を無料で貸出している。平成 28 年度はシリンジポンプ 10 件、超音波診断装置 5 件、吸引器 8 件の貸出しを行い、平均貸出期間はシリンジポンプ 15.9 日、吸引器は 31.8 日であった。

(2) 在宅医療に関連する医療・福祉・行政との連携

①医療機関との連携

A. 在宅患者の入退院に際しての支援

(a) 医療機関機能の把握

胃瘻等医療処置・検査（胃瘻造設、胃瘻交換、ポート挿入、嚥下検査）およびバックベッドや看取りとしての受入れが可能であるか、市内の病院および有床診療所に調査し、医療機関機能の把握を行った。また、市内の物忘れ外来を持つ医療機関や愛媛県下の透析のできる医療機関も調査し、必要時情報提供できるようにしている

(b) バックベッドの検討

B. 地域医療連携室とセンターの実務者意見交換会

役割の違う病院の連携室が連携・協働することは、患者ニーズに合わせたサービスを地域で提供するため大切と考える。そこで、センターが中心となり実務者間での意見交換会を今年度企画した。8/21（月）、地域包括ケア病棟・病床についてというテーマで開催し、医療関係者 66 名、包括支援センター他の関係者 33 名の合計 99 名が参加した。

C. 松山市医師会「地域連携のための合同ブロック会」への参加

②多職種との連携

A. 在宅医療懇話会の支援

B. 総合歯科医療連携室との連携

連絡会の 3 地区において「総合歯科医療連携室における訪問歯科診療について」のテーマで開催し、在宅医療に取り組む歯科医師会の活動を紹介して頂いた。医師と歯科医師の顔の見える連携にも繋がり、多職種にも訪問歯科診療を広げることができている。

C. 在宅薬局支援センターとの連携

連絡会で在宅薬局支援センター設立と事業内容の周知を行い「在宅訪問のできる薬局」など薬剤師会の在宅医療への参入を紹介してもらっている

D. 障害者等在宅医療連携に関する情報収集および調査

③行政との連携

A. 「在宅医療・介護連携推進事業」への協力

④他地域在宅医療・介護支援センター職員との Web 会議

地域包括ケアシステム構築の一翼を担う「医療・介護在宅支援センター」が四国各県の医師会に立上げまたは予定している。同様の機能を持つセンター間の事務・実務レベルが、情報交換や問題提起を行うことで、センターの事業展開に役立てることを目的に開催。2 回/年程度の開催を予定し、今年は 29.2/22、6/26 の 2 回開催

(3) 市民に対する在宅医療の啓発

①在宅医療に関する情報の提供

- A. 松山市医師会メルマガ投稿
- B. 公開ホームページ「在宅医療に取り組む医療機関」の更新

②市民への在宅医療啓発活動

A. 出前トークの開催

市民を対象に「在宅医療」への理解を深め、在宅医療の推進を図ることを目的に出前講座を開催している。センター職員が市内の公民館など会場に出向き開催。開催回数は、27年度(6回開催/受講者数 236名)28年度(19回/462名)29年8月迄(30回/845名)と増加している

B. 在宅医療セミナーの開催

C. 在宅医療市民公開講座の開催

出前トーク同様に、市民を対象に「在宅医療」への理解を深めることを目的に29年7/22ひめぎんホールで松山市在宅医療支援センターの活動報告の後、特別講演を開催。講師には岐阜県小笠原内科院長「小笠原文雄」先生、テーマ：なんとめでたいご臨終。参加者は約870名であった

(4) 在宅医療相談窓口の開設

① 在宅医療に関する相談・対応

相談者は、本人・家族 24%、医師 15%、医療機関 16%、ケアマネやサービス事業提供所 37%、行政 3%、その他 5%
相談件数は、27.4~29.8で781件、20件前後/月
相談経路は、93%が電話
相談内容は、在宅医療に関することが25%、医療機関の情報提供が35%を占める